

# 東北地方整備局 国道4号仙台拡幅

## 2月8日 箱堤交差点 立体部に切り替え



仙台拡幅位置図



国土交通省 東北地方整備局  
仙台河川国道事務所

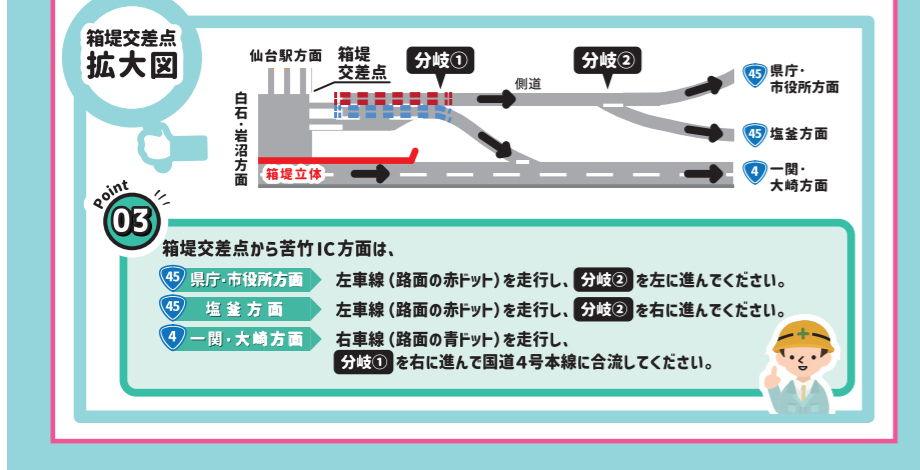
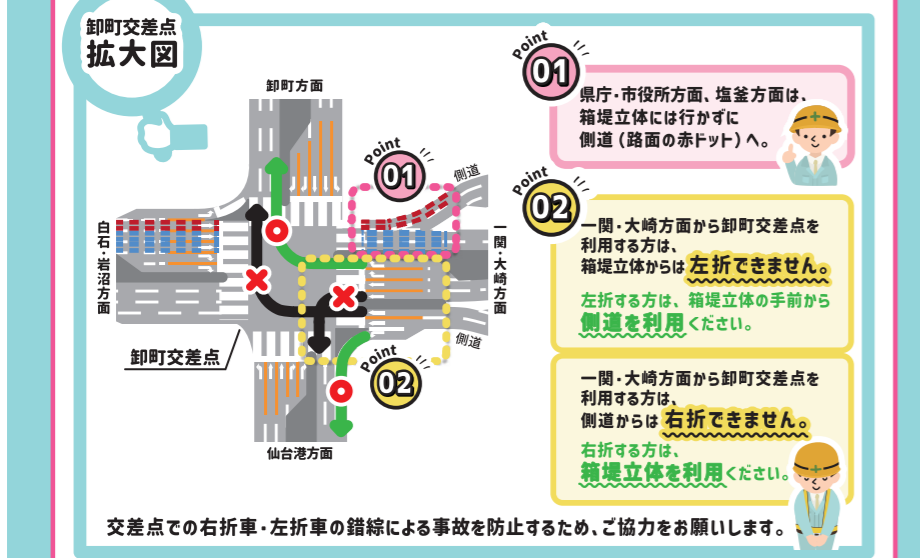
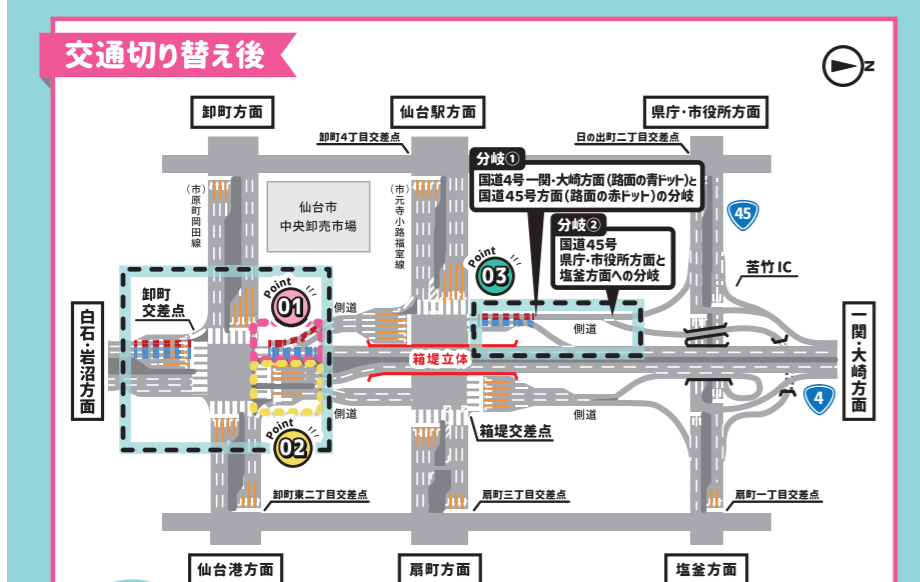
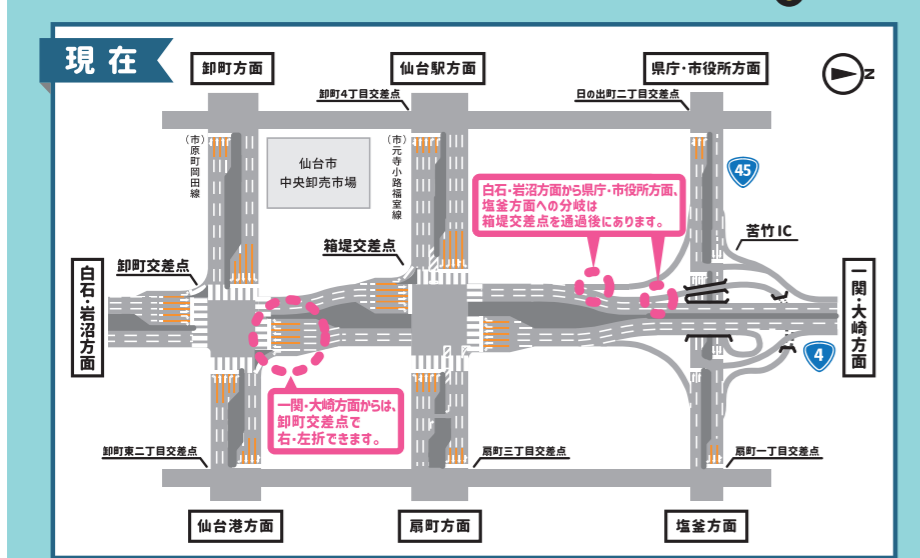
所長 田中 誠柳

国道4号仙台拡幅(箱堤交差点立体化事業区間<延長1.4km>)の立体部分への交通切り替えにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。このたび、交通切り替えを明日2月8日に迎えることが出来たのも沿線住民の皆様をはじめ、事業の推進にご支援、ご協力を頂いた多くの関係者の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。箱堤交差点の立体化に伴い、当該交差点を先頭とする渋滞の緩和や走行速度の向上、事故の減少、物流の円滑化が期待されます。

### 走行環境改善へ

なお立体部分への交通切り替えに伴い、箱堤高架橋前後の交差点での右折車・左折車の錯綜による交通事故を防止するため、交差点部の通行方法を変更することとしております。現地は、道路標識のほか、通行経路案内を目的とした補助看板を設置して、利用者の方々に案内を行う予定としております。詳しくは本紙面「箱堤立体 交通切り替え後の主な変更点について」を確認していただくか、またはQRコードより「仙台河川国道事務所HP」で確認していただくこと幸いです。今後、側道部の仕上げ工事を進め、引き続き一日も早い事業完成を目指し、関係者一丸となり取り組んで参るとともに、皆様方の一層のご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

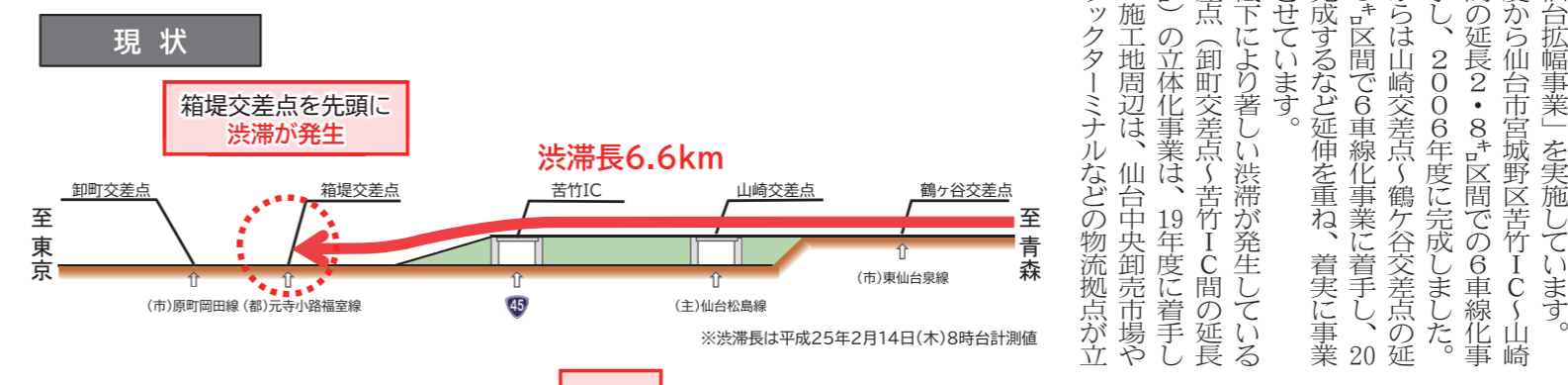
### 箱堤立体 交通切り替え後の主な変更点について



立体部への交通切り替えにより通行方法が変更になります。詳細は仙台河川国道事務所HPをご覧ください。  
URL: <https://www.thr.mlit.go.jp/sendai/douro/r4/kakufuku/tuukou.html>  
天候によって切り替え日が変更になる可能性があります。



■渋滞の改善で事故減少に期待■  
国道4号では朝ピーク時に箱堤交差点を先頭に6.6kmの渋滞が発生し、追突事故が多く発生。交差点立体化により、ボトルネックを解消することで走行速度の向上と交通事故の減少が期待。



■今回交通切り替え後■  
立体化により渋滞改善・事故減少が期待

■良好な走行環境で物流効率化■  
国道4号沿線には東北最大級の仙台市中央卸売市場や仙台北トラックターミナルなど物流拠点が立地し、大型車を中心に交通需要が集中している。交差点立体化により、走行環境が改善され、物流の効率化が期待。

渋滞緩和、事故防止に大きな効果

### 渋滞緩和、交通安全の確保へ

地し、交通需要が集中しているエリアとなっており、上り車線側では交差点先頭に最大6.6kmの渋滞が発生しています。箱堤高架橋については、23年度に上部工架設が完了し、24年11月に床版工事が完成しました。その後舗装工事を経て、25年2月に立体部への交通切り替えを実施することとなりました。交通切り替え後は、箱堤高架橋前後区間の交差点で右折車・左折車の錯綜による交通事故を防止するため、通行方法が変更となります。そのため、切り替え時期の1ヵ月以上前より、事務所ホームページ(HIP)への経路変更の案内や、ドライバーへの周知、周辺事業者へのチラシ配布など、変更内容を周知しています。今後、側道部の工事を進め事業の完成を目指します。

### 高架橋上部工で最新技術駆使 高田機工がインフラDX大賞受賞



交差点真上に送り出される鋼桁 (2023年2月3日撮影)



施工データをリアルタイムでチェックしながら作業を進めた

箱堤交差点を立体化する4年度のインフラDX大賞を受賞している。高田機工が施工した「国道4号箱堤高架橋上部工」は、巨大な交差点の直上を橋桁を一夜に約100トンで送り出す作業が行われ、緻密な計画と高い精度で架設されたことが高く評価された。高田機工は、このプロジェクトで、最新のデジタル技術を活用し、施工の高度化・効率化を実現した。建設DXの推進に貢献したと、同社は話す。

事業経緯  
1989年度 苫竹～燕沢間6車線化着手  
2006年度 苫竹～燕沢間6車線化供用  
2006年度 燕沢～鶴ヶ谷間6車線化着手  
箱堤交差点立体化事業着手  
2020年度 燕沢～鶴ヶ谷間6車線化供用  
2024年度 全線供用予定

計画諸元  
区間 起点 仙台市若林区卸町 終点 仙台市宮城野区鶴ヶ谷  
延長 6.0km  
構造規格 卸町～苫竹間→第4種第1級 苫竹～鶴ヶ谷間→第3種第1級  
設計速度 卸町～苫竹間→60km/h 苫竹～鶴ヶ谷間→80km/h



東北最大規模の交差点をまたぐ巨大な橋桁

を使い、GNSS(全球測位衛星システム)などで収集したデータなど、油圧ジャッキの反力量のデータを現場の3Dモデルに落とし込み、施工状況をリアルタイムで把握。最新の施工管理技術によって従来と比較して作業管理者を約30%削減し、作業時間も15%短縮できたという。

